泉大津市社会教育委員会議

■第３回会議の議事概要

日　　時：令和４年２月１８日（金）午前１０時00分～１１時３０分
場　　所：泉大津市職員会館3階集会室
出　　席：車谷委員、木野委員、井上委員、岡崎委員、冨山委員、祐仙委員
公開の有無：公開
傍　聴　者：１人

議　題
１．（仮称）泉大津市教育施設再配置計画の進捗について
報　告
①　文化芸術振興計画策定に係る進捗状況について
②　大学連携事業について
③　泉大津市における地域運動部活動推進事業について
④　成人式事業について
その他
①　泉北・泉南地区社会教育研修会について

議事概要
議題
１．（仮称）泉大津市教育施設再配置計画の進捗について
《議事進行》
・事務局より（仮称）泉大津市教育施設再配置計画について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。
《主な意見等の内容》
木野委員：既存施設の老朽化やバリアフリーなどの課題が多数あるが、「泉大津市全域が学びのキャンパス」というコンセプトについては賛成する。
新設される地域交流ゾーンがどれぐらい利用されるかが重要で、たくさんの人に利用してもらいたい。学校教育施設を社会教育施設として活用するという点においては、気軽に入れる施設となるよう、利用しやすい運用方法を定める必要があるとともに、広報等にて認知度をあげるべき。また、地域交流ゾーンは特定の地域に固まることなく、市域全体に万遍なく整備するべき。
祐仙委員：ワークショップの意見は自分も感じていることである。公民館などは稼働率が高い一方で、利用率が低いということは利用者が固定化されているということであり、その課題をどう解決していくかが重要。併せて利用者の高齢化や施設の老朽化の問題についても、利用者、行政双方において大変な問題だと認識している。
一方、アンケート調査より、公民館等を利用していない人の割合が利用した人の

割合を大きく上回る結果となっているため、まずは既存施設の現状や問題について、もっと知ってもらうことが重要ではないか。認知度が高まれば本計画の進行に向けた市民の関わり方も変わってくるのでは。

井上委員：昨今、自分の住んでいる地域に愛着の薄い学生が多く、また地域の文化財を引き継いでいく人間が少なくなっていると感じる。加えて、施設の老朽化や施設の現状や課題を知らない、利用しない人が多くいるなか、施設に対するニーズをよく聞ききながら計画を進めなければならない。老朽化した施設の更新は必須であり計画には大賛成だが、クリアしないといけない問題は多数ある。今後も人口は減っていくことが予想されるため、身の丈にあった施設配置を考えていかなければならない。

まずは、地域を支えてもらう人を育てるべきで、泉大津市への愛着の醸成が不十分な状態で計画を進めると、地域の実態に則さない空洞化した計画となってしまう。よって、細かい部分については変更可能な、余裕をもった計画進行をするべき。

また、新しい拠点施設をどう作っていくのかが抽象的な点について、今後検討を進めてより具体的な記述をするべき。「泉大津市ならではのもの」という視点も重要である。

最後に、郷土愛の醸成を目的とし、博物館機能または泉大津市の歴史や文化財を知れる機能を拠点施設に入れてもらいたいと考える。

岡崎委員：計画進捗についてのアンケート調査報告を受け、既存施設は、利用する特定の団体の既得権益になっているのであればよくないと感じた。老朽化・高齢化も大きな問題であり、旧来の利用者と若い世代の意見・立場が分かれているように思う。以前、私が泉大津市の施設の利用に係る調査を行った際、勤労青少年ホームのとある部屋は、特定の団体でスケジュールが埋まっており、雰囲気的にも新しい団体が入っていく余地がないなどの現状にあった。昔から住んでいても、最近引っ越してきても同じ市民として平等であるべきなのに利用できないという現状は変えていかなければならない。市民が利用しない、参加しないのは、市の活力の低下につながるので対策が必要だ。その対策として地域交流ゾーンが設置されると思っている。また、この施設は社会教育と学校教育の交点にもなる。しかし、ただ学校を地域に開いたらよいというわけではなく、きめ細やかな運用の方向を定めるとともに使いやすさも、認知度の向上も考慮しながら整備を進めるべき。

冨山委員：施設の総量圧縮という方針を踏まえるとやむを得ない方針であると思う。

一つの大きなものができても役割が異なる施設を併せるのであれば、地域交流ゾーンは、身近な施設として日常的に集まる機能として、拠点施設は〇〇大会などの大きなイベントができる施設として、両方の機能を持たせることが重要。本計画の進行は非常に丁寧に進んでいる印象。

施設の複合化、多機能化の方針については、スポーツ施設と文化施設は別々に考

えるものでない。今までと同じような機能では発展しない。これまで施設を利用したことがない人や、色々な目的の人が来れるようになると、交流や親しみやすさ、愛着が生まれてよいのでは。とおり一辺倒の施設ではなく、一歩踏み込んだ施設を。

報告

①文化芸術振興計画策定に係る進捗状況について

《議事進行》

・事務局より文化芸術振興計画策定に係る進捗状況について説明。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

②　大学連携事業について

《議事進行》

・それぞれ担当から今年度の事業について説明

生涯学習課生涯学習推進係・・・和歌山大学連携事業の報告

生涯学習課文化財係・・・桃山学院大学連携事業の報告

スポーツ青少年課スポーツ振興係・・・大阪体育大学連携事業の報告

・その後各大学の委員から追加説明

③　泉大津市における地域運動部活動推進事業について

《議事進行》

・事務局より泉大津市における地域運動部活動推進事業について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。

《主な意見等の内容》

車谷委員：「合同ゆる部活動」という言葉・概念は昔からあるものか。

冨山委員：昔からあるものではない。一般的に部活動は種目決めて、中学だったら３年間その種目をやり続けるもの。一方、軽く体を動かしたいといった子どものニーズにも対応するため、ゆるい部活→ゆる部活という名称にて事業実施している。ゆる部活を通して色々なスポーツを体験してみることが重要と考える。

車谷委員：いい取組だが、指導者の選定が難しいのでは。

冨山委員：そのとおり。本当にスポーツの楽しさを理解している指導者が必要である。

④　成人式事業について

《議事進行》

事務局より成人式事業について説明した後に質疑、意見交換を行った。

《主な意見等の内容》

祐仙委員：成人式の企画について、初めて学生が企画していることを知った。とても素晴らしい企画だった。

その他

①泉北・泉南地区社会教育研修会について

《議事進行》

・事務局より泉北・泉南地区社会教育研修会について説明。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

終了 １１：３０